

存在論的安心尺度の試作 —ストレス対処力との相関—

Developing of the Psychological Scale on Ontological Security -Correlates with Stress Coping Skills-

田中 洋一^{*1}, 磯和 壮太郎^{*2}, 石井 雅章^{*3}, 多川 孝央^{*4}, 山川 修^{*5}
Yoichi TANAKA^{*1}, Soutarou ISOWA^{*2}, Masaaki ISHII^{*3}, Takahiro TAGAWA^{*4}, Osamu YAMAKAWA^{*5}

^{*1} 仁愛女子短期大学

^{*1} Jin-ai Women's College

^{*2} 名古屋芸術大学

^{*2} Nagoya University of the Arts

^{*3} 神田外語大学

^{*3} Kanda University of International Studies

^{*4} 筑紫女学園大学

^{*4} Chikushi Jogakuen University

^{*5} Safeology 研究所

^{*5} Safeology Research Laboratory

Email: you@jin-ai.ac.jp

あらまし：本研究チームは、student agency を育むためには、自分の中の「安心 (Secure Base)」が重要と考えている。そして、その「安心」を育むために、「共感」「観想」「創話」という3つのアプローチを提案している。本稿では、「創話」と「安心」を結びつける社会学者ギデンズの「存在論的安心」を測定する心理尺度の試作版とストレス対処力尺度 (SOC) との相関について報告する。

キーワード：存在論的安心, 心理尺度, ストレス対処力, student agency

1. はじめに

OECD の Learning Compass 2030⁽¹⁾において中心的な概念とされている student agency を育むためには、自分の中の「安心 (Secure Base)」が重要であると筆者らは考えている。そして、その「安心」を育むために、「共感 (つながる)」「観想 (みる)」「創話 (かたる)」という3つのアプローチを提案している⁽²⁾ (図1)。

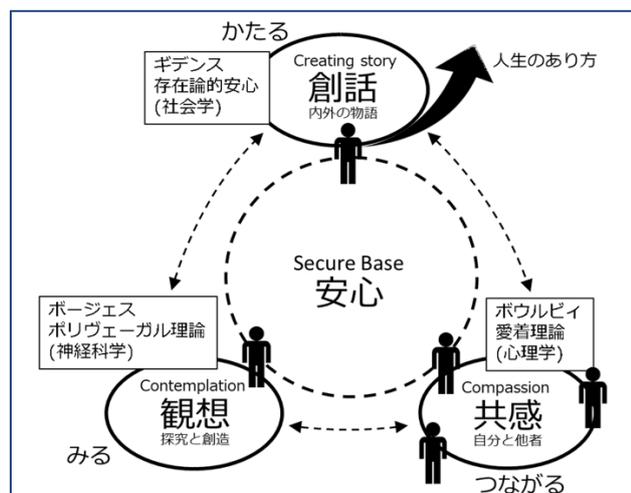


図1 安心への3つのアプローチ

1.1 共感 (つながる)

ボウルビイの愛着理論によれば、他者との関係性には Secure Base (安全基地) が重要であり、自分の中に安心を見出すことで student agency が育まれると筆者らは考えた。ここで使うアプローチが「共感」であり、対話を通じ自分自身や他者の中で生じる感情に対して否定せずに、ありのままを受け入れることをさす。

1.2 観想 (みる)

ボージェスのポリヴェーガル理論に基づき、心と身体両方に注意を向けることにより、腹側迷走神経を働かせ、安心を感じるアプローチが「観想」である。

1.3 創話 (かたる)

ギデンズの存在論的安心に基づき、自分の人生の物語をつくるだけでなく、世界がどうあるのかという物語も自分なりに創ることを目指すアプローチが「創話」である。ここには、人生の意味やアイデンティティも含まれる。

2. 存在論的安心尺度の試作

本研究チームは、2022年8月からギデンズの文献⁽³⁾⁽⁴⁾精読を通じ、存在論的安心概念の理解を深め、心理尺度の試作を行った。グループ1：実践的意識・括弧入れ・ルーティーン・儀礼・伝統等、グループ

2：再帰的意識・自己アイデンティティ・対象と自分の分離等，グループ3：基本的信頼・保護被膜・創造性等に分けて質問を考えた上，51項目（反転20項目）に絞り，存在論的安心尺度α版を開発した（選択肢：7件法）．2023年3月，2つの大学の学生数名にα版を試行させ，理解しにくい表現を修正し，β版を完成させた．

3. 心理尺度の仮調査

3.1 存在論的安心尺度β版の調査

今回2024年5月に，A短期大学2年15名に対して，本研究チームが試作した存在論的安心尺度β版を調査した⁵⁾（表1）．

3.2 ストレス対処力尺度（SOC）の調査

首尾一貫感覚（Sense of Coherence，以下SOCと記す）⁶⁾とは，ストレスに柔軟に対応できる能力を示す．SOCは，自分の置かれている状況を予測・理解できる「把握可能感」（comprehensibility），何とかやっていけるという「処理可能感」（manageability），日々の営みにやりがいや生きがいを感じられる「有意味感」（meaningfulness）の3つから構成される．SOCが強い人は健康が維持されやすいと言われる．今回2024年5月に，A短期大学2年15名に対して，日本語版SOC-13尺度（13項目を7件法で回答）を調査した（表1）．

表1 存在論的安心とストレス対処力の基本統計

	存在論的安心	把握可能感	処理可能感	有意味感	SOC
平均値	231.1	20.1	17.8	19.5	57.3
標準偏差	37.0	7.0	5.1	3.8	14.0
最大値	291.0	32.0	27.0	27.0	86.0
最小値	169.0	10.0	10.0	12.0	37.0
中央値	241.0	20.0	17.0	19.0	53.0

n=15

3.3 存在論的安心とストレス対処力の相関

存在論的安心が高ければストレス対処力が高まると仮定し，存在論的安心尺度とストレス対処力（SOC）尺度の相関を分析した結果，存在論的安心は，「処理可能感」「有意味感」「SOC」と正の相関，「把握可能感」と弱い正の相関がみられた（表2）．

表2 存在論的安心とストレス対処力の相関

	存在論的安心	把握可能感	処理可能感	有意味感	SOC
存在論的安心	1	0.43	0.65	0.64	0.62
把握可能感	-	1	0.83	0.44	0.92
処理可能感	-	-	1	0.62	0.95
有意味感	-	-	-	1	0.71
SOC	-	-	-	-	1

n=15

4. おわりに

仮調査の学生15名に確認したところ，存在論的安心尺度β版の質問項目に関して，理解しにくい点は無かった．また，存在論的安心と処理可能感・有意味感・ストレス対処力に正の相関があることは，仮説と合致した．今後，学生への調査件数を増やすと共に，他の属性への調査も実施し，存在論的安心尺度を開発していく予定である．

謝辞

本研究は，令和6年度仁愛女子短期大学共同研究費の助成を受けています．

参考文献

- (1) 白井俊：“OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来”，ミネルヴァ書房，京都．（2020）
- (2) 山川修：“エージェンシー育成につながる社会情動的スキルの3つのアプローチ”，第48回教育システム情報学会全国大会講演論文集 pp.89-90．（2023）
- (3) 澤井敦：“「存在論的不安」再考：アンソニー・ギデンズの「不安の社会学」をめぐって”，法學研究：法律・政治・社会，Vol.89，No.2，pp.137-162．（2016）
- (4) アンソニー・ギデンズ：“モダニティと自己アイデンティティ：後期近代における自己と社会”（ちくま学芸文庫），筑摩書房，東京．（2021）
- (5) 田中洋一，磯和 壮太郎，石井 雅章，多川 孝央，山川修：“存在論的安心尺度の試作-ギデンズを手がかりとして-”，JSiSE Research，Vol.39，No.2（2024）【掲載予定】
- (6) Antonovsky A.：“Unraveling the Mystery of Health: How People Manage Stress and Stay Well.”，San Francisco: Jossey-Bass．（1987）
（山崎喜比古，吉井清子，監訳．健康の謎を解くーストレス対処と健康保持のメカニズム．東京：有信堂高文社．2001）